

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-40756

(P2014-40756A)

(43) 公開日 平成26年3月6日(2014.3.6)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
E 0 5 B 55/04 (2006.01)	E O 5 B 55/04	
E 0 5 C 1/14 (2006.01)	E O 5 C 1/14	C
E 0 5 B 41/00 (2006.01)	E O 5 B 41/00	D

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2012-184693 (P2012-184693)	(71) 出願人	593088773
(22) 出願日	平成24年8月24日 (2012.8.24)		技研金物株式会社
			埼玉県川口市東領家二丁目二九の一八
		(74) 代理人	100087974
			弁理士 木村 勝彦
		(72) 発明者	納口 利彦
			埼玉県川口市幸町 3-2-26-206

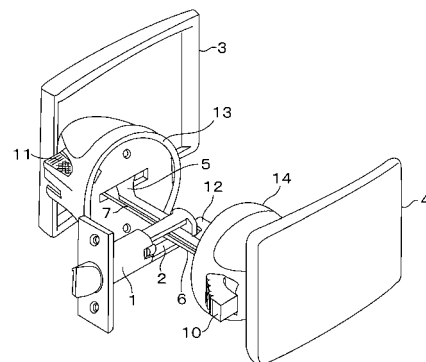
(54) 【発明の名称】 プッシュプル錠

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】握り玉錠やレバーハンドル錠の取り付け凹部や孔を生かして交換できるロック機構を備えたプッシュプル錠を提供する。

【解決手段】ハンドル 3、4 の進退により回転駆動される解錠カム 5、6 によりがスライドラッチ 1 が後退して解錠するプッシュプル錠において、解錠カム 5、6 に重なるように配置され、一端にロックツマミ 10 を、他端に表示板 11 を、またロックツマミ 10 が押し込まれた時にスライドラッチ 1 の後端に位置するロック部 12 を有する作動棒 7 を配置した。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ハンドルの進退により回動駆動される解錠カムによりがスライドラッチが後退して解錠するプッシュプル錠において、

前記解錠カムに重なるように配置され、一端にロックツマミを、他端に表示板をまた前記ロックツマミが押し込まれた時に前記スライドラッチの後端に位置するロック部を有する作動棒を配置してなるプッシュプル錠。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

本発明は、扉を開放する方向にレバーを押し込み操作、または引き寄せ操作することによりスライドラッチを開錠できるプッシュプル錠に関する。

【背景技術】

【0002】

営繕業界からは握り玉錠やレバーハンドル錠の交換用としてプッシュプル錠を元の錠取り付け凹部や穿孔を生かして交換できることが要望されている。

このようなものとして特許文献 1 に見られるようなプッシュプル錠を提案したが、これには施錠機構がなかった。

【先行技術文献】

【特許文献】

20

【0003】

【特許文献 1】特開 2011-94397

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明はこのような問題に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、握り玉錠やレバーハンドル錠の取り付け凹部や穿孔を生かして交換できるロック機構を備えたプッシュプル錠を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

30

このような課題を達成するために本発明においてはハンドルの進退により回動駆動される解錠カムによりがスライドラッチが後退して解錠するプッシュプル錠において、前記解錠カムに重なるように配置され、一端にロックツマミを、他端に表示板をまた前記ロックツマミが押し込まれた時に前記スライドラッチの後端に位置するロック部を有する作動棒を配置するようにした。

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、スライドラッチの移動を拘束するロック機構を解錠機構と同一のエリアに組み込むまれているので、握り玉錠やレバーハンドル錠の取り付け凹部や穿孔を生かして交換することができる。

40

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図 1】本発明のプッシュプル錠の概要を示す斜視図、及び施錠機構を示す斜視図である。

【図 2】本発明のプッシュプル錠の施錠機構を示す斜視図である。

【図 3】本発明のプッシュプル錠の一実施例を示す縦断面図である。

【図 4】本発明のプッシュプル錠の一実施例を示す縦断面図である。

【図 5】本発明のプッシュプル錠のロック時の状態を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

50

そこで以下に本発明の詳細を図示した実施例に基づいて以下に説明する。

図 1、2 は本発明のプッシュプル錠の概要、及び施錠機構の一実施例を示すものであり、また図 3、4 は本発明の実施例を示すものであって、特許文献 1 に記載されたような構造を有するプッシュプル錠のスライドラッチ 1 の後端部には窓 2 が形成されていて、ここには扉の表裏に位置するハンドル 3、4 の進退により回動駆動される解錠カム 5、6 がロック機構の作動棹 7 を挟むように挿入されている。

【0009】

解錠カム 5、6 は、周知のようにその後端がハンドル 3、4 の進退を回動運動に変換する機構 8、9 を介して連結され、その先端が回動してスライドラッチ 1 を後退させる。

【0010】

一方、ロック機構を構成する作動棹 7 は、一端にロックツマミ 10、他端に表示板 11、及びロックツマミ 10 が押し込まれた時にスライドラッチ 1 の窓 2 に対向する領域にスライドラッチ 1 の後端に位置するロック部 12 が形成されている。

【0011】

この実施例において、ドア D に取り付けてドア D を閉めると、スライドラッチ 1 が柱 P のラッチ受け 13 に進入して施錠される。

【0012】

ロックしたい場合には取付座 14 近傍のロックツマミ 10 をドア D の側に押し込むと、作動棹 7 が移動してロック部 12 がスライドラッチ 1 の後端部に位置する。これにより、スライドラッチ 1 は、ロック部 12 に拘束されてハンドル 3、4 の操作に関わりなく移動が不可能となる。またこの状態では図 5 に示したようにハンドル 3 の他端の表示板が取付座 13 から露出して、他者に現在、ドアがロック状態であることを示す。

【0013】

なお、ロックを解除する場合にはロックツマミ 10 をレバ 4 側に引くと、ロック部 12 がスライドラッチ 1 の後端部から抜けてロックが解ける。同時に表示板 11 が取付座 13 に隠れる。

【0014】

以上、説明したように本発明によればスライドラッチを移動させる解錠カム 5、6 とロック部 12 を操作する作動棹 7 とを重なるように配置したので、握り玉錠やレバーハンドル錠の取り付け凹部や穿孔を生かして交換さえできるなら、ロック機構を有するプッシュプル錠に交換できる。

【符号の説明】

【0015】

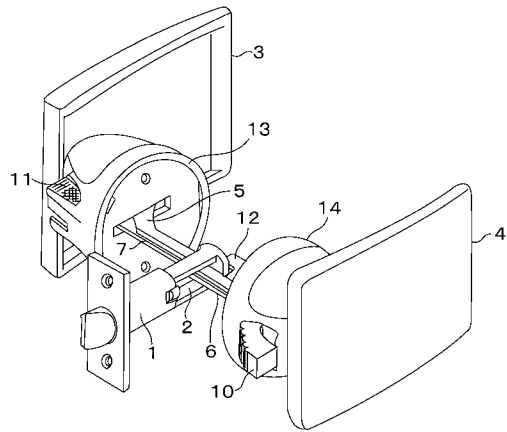
1 スライドラッチ 2 窓 3, 4 ハンドル 5, 6 解錠カム 7 作動
棹 8, 9 運動変換機構 10 ロックツマミ 11 表示板 12 ロック部

10

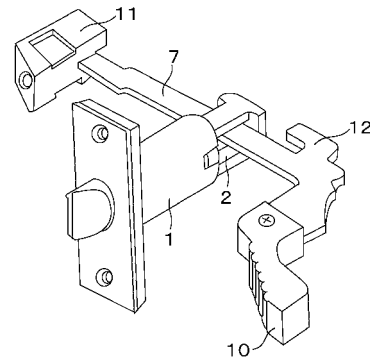
20

30

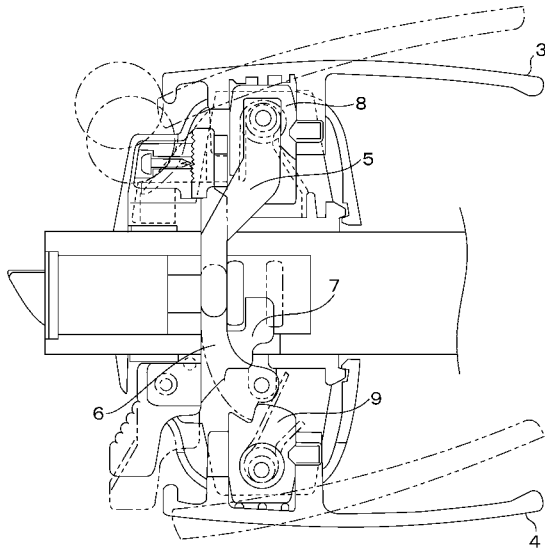
【図 1】



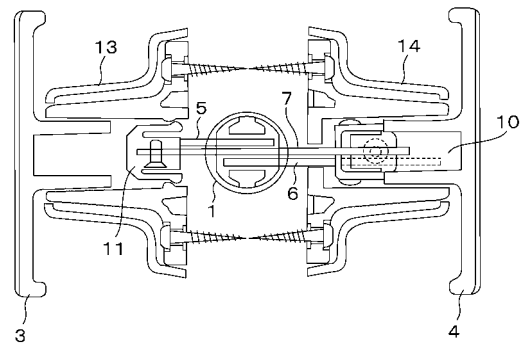
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

